

18mm

15mm

表題をここに書く・中太ゴシック体 18p

副題をここに書く・中太ゴシック体 12p

Theme in English Here with Arial or Sans-serif Style by 12 Points

40mm

●氏名 / 所属 を細明朝体 9 p で

Name / affiliation

2.5mm

要約

要約には、研究の目的—方法—結論（結果の概要と得られた知見）を明確かつ簡潔に書きます。要約は、本論文を読まなくとも、当該研究がとった方法と得られた知見がわかるようにするためのものです。要約を読む読者は要約だけを読むことを想定し、本文中で使った略語なども正式な名称で記す必要があります。また、本論とは別に独り歩きすることも想定しておく必要があります。そのため要約には参考文献や注はつけません。また、内容に対し過大な記述と受け取られないように、調査や実験などは対象を明確に示し、サンプル数なども示すなど、得られた知見の限定条件となるものは記しておく必要があります。また、同じ理由で、「検証した」「実証した」といった表現の使用は、論文中に検証手続きや実証手続きが具体的に示されている場合に限られます。ここではおおむね8行以内としておきます。8行以内でこれに近いものを望んでいます。この程度の分量の場合、改行は入れません。フォントは明朝体で、文字 8.0pt、行送り 12.5pt とします。なお、版面から左右 5mm 下がって、タイトルなどと頭が揃っていることに注意してください。

Keywords: word1, word2, word3, ... with Century or Times New Roman by 9 points (前 (要約との間) 1.0mm あけ)

1. はじめに (章題)

1) 中見出し (節題)

キーワードは、英文でつけて下さい。論文タイトルやサブタイトル、同英文タイトルで検索されますが、本論の特徴を表すのに足りないと思われるキーワードを記してください。つまり検索で拾ってほしい、研究領域や分析対象、手法的特徴、得られた知見の関連領域などが考えられます。普通名詞は小文字始まり、固有名詞は大文字始まりとして下さい。

本文は、細明朝体 9 ポイント、行間 15 ポイントですが、大概の OS で使える MS を基本とします。結果、本文の段落は 27 文字 38 行を目安にすることになります。

タイトル等に用いる中太ゴシック体としては小塚ゴシック M もしくはヒラギノ角ゴシック W5 を基本とします。これらが使えない場合は、サイズ、ピッチ、ウエイトが類似し、仕上がりイメージがこれに近いものに代えても構いません。

図表のタイトル等に用いる細ゴシック体としては、小塚ゴシック R もしくはヒラギノ角ゴシック W3 を基本とします。

英文フォントのセリフ体は Times New Roman-Regular を基本とし、サンセリフ体は Segoe UI もしくは Helvetica Neue OTS-Regular を基本とします (副題は Arial)。

作成したソフトのデータのままで入稿される場合、編集事務局側のシステムにそのフォントがない場合があります。PDF で入稿する場合も、必ずフォントを埋め込んで作成して下さい。

用紙は A4 用紙 (縦 297 mm、横 210 mm) 縦置き横書きとし、左右に 15mm、上端に 18mm、下端に 27 mm のマージンを設定します。本文部分は 2 段組みとし、中央に 8mm の段間をとります (和文の場合)。

1 ページ目の上端 (ヘッダー) には [区分] として、論文・

論説・報告などを編集事務局で加えるので、なにも記入しないで下さい。ページの下端 (フッター) には書名とページ番号を編集事務局で加えます。PDF 作成時にはベースを透明で出力してください。

段落の始めには 1 文字の字下げをします (インデント)。章題、節題などは中太ゴシック体 9 ポイント、行間 15 ポイントとし、章題は 1.、2. (全角ピリオド) と、節題は 1)、2) (全角半括弧) と番号を振って下さい。各章題の前には 1 行開けて下さい。これ以上に細分化する必要がある場合 (小節を設ける必要がある場合) には、小見出し (小節題) として、a)、b) などとして下さい。

図表には図 1、表 1 のように図表番号を付し、図題、表題をゴシック体でつけます。図題は図の下にセンタリングで、表題は表の上に左寄せでつけて下さい。これに対し、本文中の参照個所には、直接図 1、表 1 などと記すか、(図 1)、(表 1) のように括弧書きで文末に付します。その位置は句読点の前です。本文中で参照されていない図や表がないようにして下さい。図や表は、本文とともに見るとを想定し、参照個所と近いページで、また、読みやすいように、なるべくページの上端や下端にそわせて配置して下さい。

参考文献は本文中の参照位置 (もしくは文末の句読点の前) に *¹*² 等と肩付き文字で記し、論文の末尾に一覧を筆者、発表年、論文題目、出典・掲載箇所を基本として記載します。明朝体 8pt、行送りは 12pt 程度とします。

参考文献

*1 誰野何某 (2020) 「論文タイトル」掲載誌 vol. no. pp.

*2 何処野某 (2019) 『書名』、出版社
など 8pt とします / 12pt 程度の行送りです。

5mm

5mm

117mm

27mm

